

平成23年度第1回「埴町地域公共交通活性化協議会」議事録

日時 平成 23 年 5 月 17 日(火)午後 1 時 30 分

場所 埴町農村勤労福祉会館 2F 小研修室

出席 20 名、欠席 5 名(別添名簿参照)

1. 開会
2. 委嘱状の交付(新委員4名)
3. 会長あいさつ
4. 議事

(1) 報告事項

報告第 1 号 埴町地域公共交通総合連携計画の策定について

報告第 2 号 平成 22 年度埴町地域公共交通活性化協議会収支決算について

報告第 3 号 会計監査報告について

■報告事項に関する協議内容

事務局) 連携計画書の 2 ページ目に記載してある、有限会社埴タクシーの保有台数が 3 台と
なっているが、実際は 5 台であったので訂正願いたい。HP 掲載内容についても訂
正いたします。

(2) 協議事項

議案第 1 号 埴町地域公共交通活性化協議会設置要綱の一部改正(案)について

議案第 2 号 平成 23 年度埴町地域公共交通活性化協議会予算(案)について

議案第 3 号 平成 23 年度以降の事業取組みについて

■ 協議内容

議案第 1 号

阿部委員) 他の市町村では法定協議会と公共交通会議を別々に設置しているところもあるが、
委員も同じであれば、同一の協議会で二つの機能を持つということで地域の意見
もより反映しやすくなり問題ない考える。

※その他異議なしで議案第 1 号は原案のとおり承認された。

議案第 2 号

会長) 事業費の 2 4 万 8 千円についてはどのようなものか。

事務局) 次の議案第 3 号でも説明する予定であるが、バスマップの作成などの予算として
あげている。また、この他に 2 0 0 万円の予算を町として確保している。何か事
業を行うということになれば補正することができる。

金澤秀雄委員) 昨年度は国からの補助があったようだが、今年度事業を行っていくのにこの予
算で十分足りるのか。

事務局) 国の制度が変わり補助がつかなかったこと、事業実施に向けて事務が遅れているということがある。昨年計画を策定しこれからが公共交通の問題を改善するための本格的な話し合いとなってくる。町としても国の予算をあてにせずとも事業を進められる方向でも考えていきたいと考えている。

※その他異議なしで議案第2号は原案のとおり承認された。

議案第3号

阿部委員) 方針3のバス利用ライフスタイルの支援について、鮫川村では高校生の定期券の半額補助を4月から行っている。そのような支援も検討していただきたい。

真鍋委員) 近年高齢者の自動車運転が増えていて危険運転なども目立つが、車がないと移動の足がなくなってしまい、免許証の自主返納が進まない。ぜひ、返納者へ商店街やバス運賃でのサービスを考えていただき、返納を促進できるよう検討していただきたい。

会長) バス利用補助による、利用促進の案が2件出された。今後、これらについて実現するための費用負担など協議しながら検討していきたいと思う。

大竹委員) 予算について、全体の予算をどのように考えるか。計画書では2,100万円の財政負担を維持もしくは減少となっているが、この金額はバスについての目標であってトータルの事業の目標ではないと考えてよいか。

会長) そのとおりの考え方でよい。現在のバス路線を確保していくと考えた場合にはこの金額を上回らないように運行を続けていくという目標である。バス以外で、より良い施策を導入する場合には新たな補助などについても考えていかなければいけない。

金澤秀雄委員) 今の説明だと、デマンド交通導入に関しては予算別として考えてよいか。

会長) 長い計画期間であるので協議会で必要という話になれば、そのつど別途検討することになる。

金澤秀雄委員) 片貝小学校・矢塚分校が統合になった場合、現在の負担額では矢塚方面のバス路線が維持できないのではないかという心配もある。そうなった場合にデマンド交通の導入なども考えていかなければいけないと思うがどのように考えているか。

会長) デマンド交通の導入に関しては、協議会の中でも継続して議題にあがっている内容である。計画書作成の段階では、検討事項ということで具体的な記載にはならなかった。

鈴木委員) デマンドの場合、町の中を巡回するような運行であればよいが、矢塚など利用客がまばらな場所との往復では運行が難しい。町内運行するにも範囲が小さすぎる。

勝田委員) 利用者の確保は難しいかもしれないが、現実としてバス停まで歩けないお年よりも数多くいる。

吉岡会員) デマンド導入に関して難しい部分が数多くある。バス停まで歩けないお年寄りの足を確保する意味などからのデマンド交通導入の必要性が十分わかる一方で、採算性面などで問題がありなかなか結論が出なかった。今年1年時間をかけて落としどころを見つけていくことが必要である。実際にデマンド交通を導入する市町村は増えているが、独立採算は難しく、ほとんど行政や商工会が負担をしている。

- そのあたりをどのようにしていくかこの協議会で話し合っていければよいと思う。
- 会長) デマンドの導入に関してはまだまだ議論が必要である。継続して協議をしていきたい。
- 事務局) 今後、委員の皆様の意見をさらに引き出せるように、協議会とは別の少人数のワーキンググループの設置も考えている。そのような会の中でより具体的に話を進めていきたい。

※その他異議なしで議案第3号は承認された。

5. その他

①塙駅前バス待合所の整備について

②その他（ワーキンググループについて）

■その他の協議内容

- 事務局) ①の塙駅前バス待合所整備について、利用者の利便性向上と町の活性化を目的として、国の「きめ細かな臨時交付金」という補助がついた。これを活用して、塙駅前のバス待合所を改築したいと考え、福島交通と協議を進めている。予算としては、国の交付金が1200万円、町の持ち出しが412万3千円である。現在の建物が20.8坪であるが、少し大きさを縮小して17～18坪の大きさで新たに建てたいと考えている。建物のイメージとしては、木造の明るい建物にしたいと考えている。今月中には設計にかけて、今年中の完成を目指したい。委員の皆様からもアイデアをいただきたい。
- もう一点は、ワーキンググループについてであるが、協議会を3つ程度に分けて協議会の合間に1～2回の開催を考えている。
- 菊池哲也委員) 町で学校休業期間に中学生に配っている回数券について、学校が休みの日はバスが中学校まで行かないので利用者がまずいない。結局、親が送り迎えしている状況になっている。あと時刻表が非常に分かりづらく、利用しづらいと感じる。
- 阿部委員) 経費節減で学休ダイヤは中学校を経由していない経過がある。またダイヤについても春・夏・学校がある日・無い日の4パターンあるので分かりづらくなっている。ダイヤの整理や路線の整理は検討課題である。また通学に関する安全性の確保などについても積極的にお願いしていきたい事項である。
- 鈴木委員) ダイヤについては水郡線ダイヤなどに合わせて、春秋で作ってみてはどうか。
- 会長) それぞれ、具体的な事業についてはワーキンググループ等活用して話を進めていきたい。

6. 閉会